

期末試験まで明日で1週間となります。そこで、今回は勉強の意義や方法について考えてみたいと思います。

1 学習時間調査について

過去3回の考査前1週間の合計学習時間

	1学期中間	1学期期末	2学期中間
1年	7時間44分	6時間35分	7時間51分
2年	6時間09分	10時間11分	8時間32分
3年	5時間38分	8時間44分	5時間33分

学習時間について、各学年で違った様子が見られました。

1年生は1学期期末試験時には減少したものの、2学期中間時には3回の調査の中でもっとも高い数値となりました。

2年生は1学期期末時には大きく伸ばしましたが、2学期中間時には減ってしまいました。

3年生は進路実現を意識し、1学期期末時には大きく伸びたものの、2学期中間時には元に戻りました。

どの学年にも言えることですが、1日に換算すると1時間前後です。質の高い勉強をすることは大切ですが、この量ではいくら質が高くても十分な量とは言えません。

1日3時間、本気で目指してみませんか？

現状を変えて、未来を開こう！

「学習時間ゼロ」減少！

1学期の中間時に33人の生徒の学習時間がゼロでしたが、25人まで減少しました。『学習時間ゼロ』が0人になることを期待します。この機会に自らを振り返り、学習について考える機会としましょう。

2 20代及びプラスαの先生方からのメッセージ

君たちに近い年齢の「若き」先生たちからの勉強に向けての熱きメッセージを送っていただきました。「何を勉強したらよいかわからない」「どうやって勉強したらよいかわからない」という人は、ぜひ参考にしてください。

「高校時代の自分の試験勉強について」

- ・ 問題を見れば答えがすぐに思い出せるぐらい(3~4回)ワークを解いた。社会などは声に出して読んだり、ゴロ合わせで覚えた。(東中先生)
- ・ 授業中に書いたノートで重要だと思う部分をもう一回ノートにまとめ、穴抜きにしたりして勉強しました。(大江先生)
- ・ 暗記することはひたすら書いて覚えるタイプでした(ノートにまとめながら)。理系科目は苦手で、丸暗記では対処できないところは友達や先生に聞いて教えてもらっていました。(俣野先生)

- ・ 部活との両立を達成するために、分からないところは昼休みに先生に質問をしていた。時間がない時には効果的で良かった。
暗記モノ（英単語、公式、重要語句など）は10分で絶対覚えきえることを繰り返し行った。結果、暗記力が向上し、仕事をする時に役立っている。（川端先生）
- ・ 私はとにかく時間をかけて勉強しました。暗記は必ず1週間前からやり始めました。繰り返し書いて覚えるタイプだったので、真っ白の紙に書くスペースがなくなるくらい何度も繰り返して書いて覚えました。（松下先生）
- ・ 暗記用のノートを作り、考查範囲の内容を繰り返し書いたり読んだりして覚えた（赤いシートで消えるものを使った）。積極的に先生にわからないところを聞いて、理解した。（稲田先生）
- ・ 推薦で大学進学するために評定を上げる努力をしました。とにかく授業で先生が「ここが大切です」とか「ここがポイントです」とか「ここはテストに出ます」と言われたところを覚えたり解いたりしました。効率は良かったと思います。（小西先生）
- ・ 社会や理科系は教科書の太字をノートに3回ずつ書きながらその言葉を声に出し、その言葉が意味するものをイメージする。わからないところは先生に聞く。（山川先生）

「久美高生への勉強のアドバイス（こんなことをしてみたら？ など）」

- ・ 目標とか夢を持つこと。それがはっきりしたら勉強はそれを実現するために必要だと感じるはず！！（小西先生）
- ・ 自分が何気なく視線をやるところに、暗記したい語句と意味（内容）を書いて貼る。
軽食やお菓子を食べると消化する方に力が傾いて、脳に力がいかないので、食べながら勉強をしない。（田中先生）
- ・ 勉強は質も大切です。テレビなどを見ながらなどの「ながら勉強」はやめましょう。（山川先生）
- ・ 試験前の早いうちから自分でノートを作ってみてはどうですか？（特に社会科目は、しくみや流れを自分で整理し直すのに効果的です。）
英語は単語を覚えないと始まりません。まずは新出単語を覚え、英文を読んで読んで読みまくり、ポイントの英文は書けるように練習しておく。（俣野先生）
- ・ 提示された課題があるなら、まずはそれが完璧になるまで何度も繰り返すことが大事です。（桐村先生）
- ・ 一人でコツコツと勉強をするもの良いが、友達とお互いにわからないところや覚えたいところを説明しあう。「説明できる」＝「深く理解している」ということです。（廣井先生）
- ・ 家に帰るとダラダラ時間を使ってしまうと思うので、授業と同じように50分勉強、10分休むというようにメリハリをつけてみては？（松下先生）
- ・ 思い描いたものは実現できます。できない問題に対して簡単に諦めず、どうしたらできるようになるかを考えよう。ちょっとずつできる幅を広げてみませんか？「努力できる」人が天才です。お手伝いするので、先生を利用しましょう！（川端先生）

どうでしょうか？ 参考になるアドバイスがあったことと思います。さらに先生方に直接詳しい内容を聞いてみよう！ きっと君たちのためになるさらなるアドバイスをもらえるでしょう。

川端先生のアドバイスの最後にもありましたが、

「お手伝いするので、先生を利用しましょう！」